

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習支援 教務部	①教材や学習活動等を改善し、生徒が主体的に学ぶ授業の工夫を推進する。 目標：ICT機器等も活用し、授業づくりの改善に取り組んだ教員80%以上  ②各教科・学科で自主教材を作成したり、個別に対応したりして、分かる授業の推進や学習の遅れのある生徒への配慮を図り、生徒の授業への満足度を高める。 目標：授業満足度80%以上	・ICT機器等も活用し、授業づくりの改善に取り組んだ教員の割合は昨年よりも上昇した。今年度から学習評価の提示の仕方が変わったため、評価基準や方法を見直し、それに伴って授業の内容や教材、学習活動の改善が行われたものと考えられる。ICT機器等の活用については、情報提供は行っているものの、教科・学科また教員個人によって偏りがあるのが現状であり、授業での活用が進むような取り組みが必要である。 ・意欲的に授業に取り組んだ生徒の割合は、昨年より増加し、91.3%が授業に意欲を持って取り組めたと回答し、保護者も88.3%が本校の授業に満足している。各教科学科で個別対応や学習の遅れのある生徒にも対応した教材工夫や課題内容見直しなどが行われ、その成果が現れたと言える。ただし、多欠席の生徒が増加しており、欠席した授業の手当に課題が残る。	・ICT機器を活用した授業作りについては、今後もICT支援員巡回を活用する。また、ニーズに応じた校内研修やICT機器を使用した公開授業などを実施して教員間での知識・技能の共有を図り、スキルアップを目指していく。生徒用タブレットの更新、電子黒板の導入に合わせ、使用方法等の周知に努め、活用しやすい環境づくりについて検討を続けていく。 ・学習習慣の定着と基礎学力・学習意欲の向上を図るための授業を作る工夫を継続するとともに、各教科学科で評価と指導の一体化についてさらに研究を行う。 ・今後も、生徒の実状に応じて、習熟度別の授業や少人数授業、個別指導を行っていく。学習の遅れのある生徒の指導については、学年会や教科・学科とも連携をとり、学校全体での取り組みを図っていく。
2 生徒支援 生徒指導部	①社会生活における基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識を高めさせる。 目標：全生徒の規範意識向上100%達成  ②学校行事や部活動に生徒自らが主体的に取り組もうとする態度を培わせる。 目標：学校行事・部活動への参加意識80%達成	・社会生活における基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識を高めさせることについては、生徒、保護者ともに、高い結果を維持できている。特に生徒間での意識の高さがみられた。教員では100%の良い結果であった。 ・「学校行事や部活動に生徒自らが主体的に取り組めるようにする」ことについて、教職員・生徒は取り組みに高い評価をしているが、保護者からの評価は昨年に比べて下がった。	・学年会・学科会との連携を図り全教職員が組織的に取り組み生徒支援を継続することにより、コミュニケーション能力や社会生活を送る上での規範意識の向上、主体的に取り組む態度の育成を図っていく。 ・規律意識を高めさせる指導については、家庭との連携をさらに深めながら生徒の意識を変えていけるよう粘り強く取り組んでいく。また学校での活動を保護者にむけて知らせる取り組みを行っていく。
3 進路支援 進路指導部	①生徒の進路意識形成を目指し、LHや特別時間割期間等の活用により計画的に進路指導を実践する。 目標：キャリア教育や進路指導の達成度自己評価アンケート80%以上  ②全校体制によるきめ細かな進路指導を行い、個々の生徒の進路実現を図る。 目標：進学就職希望100%達成	・生徒・教職員について、目標値を達成することができた。しかし、保護者については若干目標値を下回った。本年度より行事内容を精選し取り組んだことにより、生徒・教職員にとりての負担が軽減し、1つの目標に向かって取り組みやすくなったのではないと思われる。次年度以降も効果の有無を見極めながら、行事内容の精選に努めたい。また、将来的な目標をもって入学してこない生徒の割合が高くなり、進路実現に向き合う姿勢が低下傾向にあるため、その都度対応方法を検討しながら支援する必要がある。 ・保護者が子供と進路について十分話し合っているかについては、低学年ほどその割合は低く、進路支援に関しての家庭との連携の難しさが年々増加している。 ・教職員全員での企業訪問や、多くの教職員による面接指導など、全校体制による進路指導の成果が、求人企業数の増加や進路先内定・合格状況に現れている。	・本年度は、進路ガイダンスや講演会などの進路関連行事を精選できたことにより、各行事に向かう生徒の姿勢が多少改善できたのではないかと考えられる。今後も進路支援の取組目標や方法を大きく変えるのではなく、生徒の実情にあわせて、柔軟に対応していきたい。その対応策の一つとして、進路希望調査のこまめな実施により、生徒の希望の把握と担任との密な連携を図りたいと考える。 ・低学年の進路意識向上のために、行事の意義や目的、将来の進路との関わりをしっかりと認識させるとともに、事後アンケートを通した振り返り指導を実施する。 ・年々、目的意識の低い生徒の入学割合が高くなってきている。3年間の継続した様々な支援時には、希望に応じた個別少数指導など、状況に応じた運営方法の改善を図りたい。
4 図書指導 PTA活動 安全管理 図書庶務部	①生徒が図書室に訪れる機会を増やす。 目標：図書室を利用したことがある生徒が40%以上  ②PTAの各種委員会活動を充実させ、保護者との連携を深める。 目標：PTA会報やホームページ等を通した学校行事理解度80%以上  ③避難訓練や防災や安全教育などを通して生徒の防災意識や安全意識を高める。 目標：防災・安全意識80%以上	・朝読書の貸出を特時の中に入れたことで生徒への事前指導がスムーズになり、そのことが生徒の図書館利用率を向上させた一因になったと考えられる。 ・目標の図書貸出冊数には1月時点では到達していないが、これまでに約700冊の貸出がある。目標達成できるよう、引き続き読書活動の推進を図っていきたい。 ・県立図書館司書をお招きし、図書委員にデジタル図書について教えて頂いた。今後は、課題研究等で活用していきたい。 ・本校のPTA会報が高P連の審査で入賞し表彰され、大きな励みとなった。 ・全校生徒、教員対象の避難訓練（防災訓練）や防災教育を実施したことで防災意識を高めることができた。	・教職員の図書館利用率も下がっている中で、教職員に推薦図書を生徒に紹介してもらい興味を持ってもらえる工夫する。また朝読書の際、先生方にも本を借りて頂けるよう呼び掛けていきたい。 ・分類法について図書委員への周知を行い、図書の貸出・返却がスムーズに行えるようにする。 ・朝読書の貸出を特時の中でを行い、事前指導の負担が軽くなるようにする。 ・学期毎の読書会は全学年横並びにするのではなく、クラス毎で設定日を変えることで図書館の本をより多くの生徒が利用できたため、継続していきたい。 ・来年度もPTAの方と協力して、よりよい会報を作成したい。
5 保健管理 保健部	①健康的な規則正しい生活を送り、心と体の健康について自己管理の徹底を促す。 目標：健康管理を心がける80%以上  ②快適で清潔な学習環境の整備のため、毎日の一斉清掃の徹底を図る。 目標：校内環境美化活動に意欲的に取り組む80%以上	・健康管理については、今年度は質問項目を変更し、身体だけではなく心の面に対する視点も加えたためか、昨年度と比較して低いポイントとなっている。特に保護者の割合が80%を下回っている。教職員については、健康管理について注意喚起する機会が前年度より減少している。 ・校内美化については、教職員の評価が80%は超えているものの、前年度より10ポイント低くなっている。	・今年度は2学期から「心の健康観察アンケート」が始まり、事後対応についても少しずつ定着してきている。今後もケースに合わせ、他機関と連携した対応を継続する。また、長期休業前に規則正しい生活についての全体指導や個別指導を継続する。 ・生徒に対しては、校内外の環境整備への意識の継続を図る。また、教員に対しては、毎日の掃除監督の徹底を図る。

<p>6 スペシャリストの育成 実習部</p>	<p>①課題研究や校外実習・学校行事などを通して、地域や産業界等との地域連携を深める。 目標：教員が地域との交流の大切さや農業の素晴らしさを生徒に伝える。80%以上</p> <p>②資格取得を通して、生徒の学習意欲を向上させ、学科の専門性を高める。 目標：卒業時に福井フューチャーマイスター「ゴールド」70%以上認定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携の取組みにおいて、教職員については、昨年より改善したように見えるが、回答者を専門職に変更した結果である。結果として目標値には届かなかった。生徒においては、ほぼ同数となり大きな変化はなかった。また学科間での取組みに差があることから、10%の生徒が交流できなかったと答えている。</li> <li>・今年度の福井フューチャーマイスター取得状況はゴールド以上が71.3%（昨年54.8%）という値となった。昨年より増えて目標達成となったが、生徒の取組み意識は89.1%と高めなので、これ以上の結果を目指していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携推進のため学科主任会議や実習会議において、定期的に地域や外部連携に関する話題や情報の提供を行い、教職員の積極的な活動をサポートしていく。外へ出やすい時間割をはじめ、カリキュラムについても検討していく。</li> <li>・資格取得は学科間や難易度によって差があるが、各学科で3年間の目標を持たせ、入学時より生徒・保護者に働きかけて、計画的な取得を促す。「福井フューチャーマイスター制度」の「プラチナ」「ゴールド」の認定に向けて、生徒に学校生活全般の過ごし方を振り返らせ、保護者には資格取得の意義と検定料負担への理解が得られるように説明していく。</li> </ul>
<p>7 いじめ防止 いじめ対策委員会</p>	<p>①ホームルーム活動や学校行事、部活動等の集団行動を通して、全生徒が思いやりや助け合いの心を育てる。</p> <p>②アンケートを実施し、面談やカウンセリング等を通して、いじめの早期発見と早期解決を図る。 目標：いじめの早期発見・早期解決への取組みについて、満足度85%以上を目指して指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が思いやりや助け合いの心を持つような指導が教員で減少し、生徒同士が思いやりや助け合いの心を持って接しているという項目も昨年に比べて下がった。一方で、保護者は子どもたちがその気持ちを持って行動していると感じている。アンケート記入のみではうまく伝えられていない生徒が少数ながらいは課題である。</li> <li>・いじめの早期発見、解決についても、いじめ対策委員会を通して保護者との協力のもと、取り組んでいる。</li> <li>・いじめについて伝えられる生徒は、生徒全体では89.0%と目標値に達し、さらに上を目指したい。</li> <li>・いじめ対策への満足度については、保護者88.8%と多少減少したが目標に達した。教職員の取組みへの心がけについては93.8%と上昇し、これからも教員間の意思疎通を心がけたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多彩な学校行事により、人間関係を学ぶ機会が多いことがよい結果につながっている。今後も自主的な集団活動を継続し、100%を目指していく。</li> <li>・少数ながらいじめをアンケート等で伝えにくい生徒がいる。これまで以上に日頃からささいな兆候やサインを見逃さずに個人面談やカウンセリングを行っていく。</li> <li>・学校アンケートを「いじめ」と「心の健康観察」に分けて行った。いじめ対策委員会で気がかりな生徒等について幅広い情報を共有し、学校相談、学年会や学科会と連携し、いじめの未然防止・早期発見・実効的かつ迅速な解決に努めていく。</li> </ul>
<p>8 業務改善</p>	<p>①様々な学校業務においてDX化を図り、教職員の業務遂行に役立てる。</p> <p>②教育活動業務の必要など必要に必要エネルギーと時間を十分割けるようにする。</p> <p>③授業を始めとした様々な教育活動をよりよくするために工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル技術を活用し、業務の効率化を十分に行えていないと感じる教職員が25%存在しており、デジタル技術の教職員間での共有に課題がある。</li> <li>・不要と思われる業務を検討し同僚と共有できたと感じる教職員は65%にとどまっておらず、業務の精選を行う上で必要な議論まで行えているとは言えないことが課題である。</li> <li>・教育活動を改善しようとしている教職員がほとんどであり、そのためにも業務の改善が急務である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校務分掌、学科、学年会でやっている行事や業務内容について、ゼロベースで検討する機会を定期的に設けながら、不要と思われる行事や業務については思い切って切り捨てることも学校全体で検討していく。</li> <li>・チームズを活用し、チャット機能を使った会議を行うことや、デジタルでの資料先渡しによる会議時間の短縮をさらに進める。</li> </ul>

# 【様式】 令和7年度福井農林高等学校 学校関係者評価書

(問) ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。  
・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。  
・スクールポリシーを踏まえた評価となっているか。  
・その他

(意見を聞いた方)

長谷川 俊基 氏(元福井農林高等学校長) 浜本 亜紀 氏(福井農林高等学校PTA会長)  
森木 幸一 氏(福井農林高等学校農友会事務局長) 佐々木 昭博 氏(啓蒙公民館長)

(意見欄) ○教育課程・学習支援

生徒の9割強が「意欲的に取り組む」と答え、先生方の丁寧な指導の成果だと思う。多様な生徒に応じた学習指導などで大変な面が多々あると思うが、今後ともわかる授業の推進に向けて取り組んでほしい。業務過多にならないように気をつけながら、タブレット使用頻度を上げるためにも、教職員がICTを使用した授業に対する知見をさらに深めていくことも必要。

○生徒支援

「規範意識の向上」に向けて教職員が丁寧に指導している姿がアンケート結果に反映されており、保護者の立場からすれば非常にありがたい。校則を生徒自身の自主性を尊重して改正した取り組みは、非常に素晴らしいと思う。生徒が外部の人にも積極的に挨拶ができるようになることを目指し、まずは先生方からも積極的に生徒へ挨拶するような姿勢を見せることも大切なのではないかと思う。

○進路支援

教職員・生徒・保護者がそれぞれ協力し合って取り組む姿が一体感として感じられるアンケート結果である。1年生からの進路支援が進路実現の高さに現れており、素晴らしい。生徒の多種多様な進路希望に合わせた柔軟な指導がうかがえる。特に進学を希望する生徒に対しては、低学年からの意識付けが大切で、学年、学科と連携しながら3年間の指導を推進してほしい。

○図書指導・保護者との連携・安全管理

Web検索が主流になっている現代で、あえて紙媒体の文献で調べる活動は大変貴重な経験になるはずであり、現在行っている図書指導については素晴らしいし、継続してほしい。図書室の利用率を上げるのに、DVD上映会などの企画をしてみてもどうか。避難訓練において、休み時間の災害発生を想定し事前に生徒に知らせずに訓練を行うなど、昨年度とは違ったやり方で訓練を実施したことは素晴らしく、今後も継続してほしい。

○保健管理

「心の健康観察アンケート」は、ストレスや悩みなど「いじめ」アンケートとは違った面を知ることができ、よい手段だと思う。生徒達はアンケートに答えることで、自身の心の健康を客観的に捉える機会を与えられるので、自分自身を理解する意味でも継続してほしい。登下校時に生徒達から明るい返事が返ってくるなど、心身の健康状態がよい生徒が多いことがうかがえる。地域住民としては大変好印象を持っている。

○スペシャリストの育成

先輩の姿を見て下級生は目標を立てることが予想されるので、資格取得や外部と連携した課題研究を、これまで以上に下級生に知らせる機会を設けるといいのではないか。インターンシップや課題研究などで地域・産業界との連携を深めていくことが生徒の意識向上につながるので、今後とも改善策にあるように時間割を工夫するなど積極的に取り組みを進めてほしい。

○いじめ防止への取り組み

保護者からいじめ防止について高い評価を得ていることは素晴らしい。今後も教職員全体での情報共有、保護者の理解を得ながら、早期発見、丁寧な対応をお願いしたい。学校行事は、生徒の思いやり、協働意識など人間関係づくりのよい場になるはず。行事運営や指導など難しい面もあると思うが、農林高校の特色ある行事を継続してほしい。

(学校関係者評価を踏まえた今後について)

生徒達は一般社会でなかなか経験できないことを、本校が実施している様々な体験学習の中で経験できているという肯定的な意見があり、教職員が行う指導に対しても適切であるという評価をいただいた。福井農林高校は多くの特色ある取組を行っている。今後も、生徒達の満足度が上がるように、取り組みをさらに魅力的になるよう改善し、地元の産業界等との連携を推進し、「地域社会で農業をはじめとした産業の発展に貢献しようとする生徒」の育成に努めていきたい。